

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 デラシネラ
公演団体名	カンパニーデラシネラ

内容
<p>カンパニーデラシネラの作品は、パントマイムの動きをベースに台詞を取り入れた独自の演出で、幅広い世代の注目を集めています。今回のワークショップでは、体操着に着替え体育館でカンパニーメンバーと一緒に動き、他人とタイミングを合わせたり、頭でイメージした動きを実際に身体を大きく動かしながら体験します。</p> <p>パントマイムで大切なことはイメージすることと、物事をよく観察することです。その二つをテーマに、短い時間ではありますが、相手の真似をすることから始め、随時発表の時間を交えながら、いろいろな動きに取り組みます。</p> <p>パントマイムの特性である創造性と想像力を大切に、舞台を身近に感じてもらえるよう事前に学校を訪れ、児童とコミュニケーションを取りたいと考えています。</p>

タイムスケジュール（標準）
挨拶（5分）、実際に立って身体を動かす。人形振りや真似っこゲーム等。（15分） 二人組みになって相手と一緒に動く。生徒同士の接触がないように注意する。（20分） 最後の挨拶（5分）

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
講師 2名

学校における事前指導
<p>児童は体操服での参加をお願いします。</p> <p>講師 2名が体育館で人形の様に立って待っております。もし水筒などを持参される場合は体育館の端に置いてもらい並んで座ってもらうようにしてください。</p> <p>ホワイトボード（黒板）1枚をお貸し頂けたらと思います。</p> <p>ワークショップ終了後に体育館の下見と打ち合わせをさせていただきたいので、15分ほどお時間をお願いいたします（担当の先生がお忙しい場合は代理の先生でも可。）</p> <p>その際、緞帳の開閉の確認をしたいので、電動の場合は操作に必要な鍵のご用意をお願いいたします。</p>

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 デラシネラ
公演団体名	カンパニーデラシネラ

演目
<p>「劇場ではない場所」で行う 円形舞台 セルバンテスの名作『ドン・キホーテ』は、“騎士”を夢想する破天荒な男の珍道中。全編上演は数時間かかるこの古典を、子供から大人まで楽しめる身体表現に富んだ一時間の作品に仕上げました。セリフを使わず、パントマイムをベースにした演出で上演します。</p> <p>カンパニーデラシネラは、劇場での作品発表の他、野外や小学校に出向いての本格的な舞台作品を創作しています。舞台と客席の境界線を取払い、同じ地平で行うことを目標に、普段、劇場に足を運ぶ機会が少ない方と出会える機会を模索しています。演出家小野寺修二はパントマイム出身で、身体性に富んだ舞台作品を数多く発表。またこのプロジェクトは、プロダクトデザイナー石黒猛を美術家として迎え、作品中の様々な小道具が電動で動く仕組みが仕込まれています。体育館という日常の空間は、デラシネラと石黒猛の美術によって異空間へと誘われ、観客の想像力によって大なる非日常へと飛躍します。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
出演者 6名 音響 1名 舞台監督 1名 計 8名

タイムスケジュール（標準）
11:00 到着・本番準備 [本番] 13:00 開場 13:10 先生のご挨拶・開演 14:10 終演・退場・片付け 15:10 退出

実施校への協力依頼人員
当日は体育館のチャイムを必ずオフにさせていただきをお願いいたします。 パイプ椅子を図面の個数、フロア中央に畳んで出しておいていただくと助かります。 上演の前後に先生がご挨拶をされる際に使用するワイヤレスマイクのご用意をお願いいたします。

演目解説

広く親しまれている名作『ドン・キホーテ』を独自の観点から、想像力を大いに刺激するパフォーマンスに展開します。あらすじを追うだけでなく、表現の可能性や新たな物の見方、視点に気づく機会となります。

今作は、初演以降上演を重ね、小学校の低学年から中学生まで、男女問わずそれぞれに楽しめる作品であるをご好評頂いています。この経験を活かし、さらに質の高い舞台表現とします。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

パントマイムを使った演劇でセリフがないため、児童自身が想像力を働かせ能動的に観劇頂くこととなります。身近な道具を使った見立てが数多く行われており、想像の助けになります。

また、人物相関図やあらすじが載ったパンフレットを配布し（事前にデータをお送りします。学校で印刷・配布をお願いいたします）、作品理解が深まるよう努めます。

児童生徒とのふれあい

演技エリアをコの字に囲って着席するスタイルで、どの児童も臨場感あふれる距離で観劇頂きます。

演目内で、児童に問いかける箇所や、風の起きるシーンで手伝ってもらうシーンがあります。

通常は、舞台上で児童（希望者 20 名ほど）と一緒に踊る場面があるのですが、今年度はコロナ対応として、その演出シーンを割愛します。